

わたしにも できるお仕事 お話し相手



第 135 号

発行日 平成 27 年 3 月 19 日
発行 笠間市社協東支部
編集 広報委員会
印刷 有限会社 テクノプラン

今年も明るくなごやかに 女性部新年のつどい開催

一月二十五日に東支部の女性部新年のつどいが社協友部会館で賑やかに開催されました。四地区の女性部役員と東支部役員、合わせて三十九人が勢ぞろいし、昨年度の計画事業の大半を順調に進めることができたことを喜び合うと共に、新年度の活発な活動を誓い合いました。



女性部新年のつどい

二月十三日に東支部委員・福祉推進員一行四十二人はつくば市の「サイバーダイナミクス」を視察研修しました。この会社のロボットスーツは筑波大学の山海教授が世界に先駆けて開発した介護&リハビリ用ロボットで、介護とりハビリの世界を革命すると言われています。



ロボットスーツの装着体験

このロボットの凄いところは、コンピューターを積んでいないことです。このロボットを取り付けた人の脳からの運動神経情報をセンサーで感じとって関節に取り付けたモーターを回して動かすのです。あたかも自分の体の一部であるかのように。脳梗塞などの後遺症で歩けなくなった人がこのロボットスーツを装着したりハビリ訓練で歩けるようになります。大勢の参加者が実際に装着し

介護の世界に革命が！

飯田二区 西澤 暉雄

わが町の自主防災は(第4回) 阪神淡路大震災体験が転機

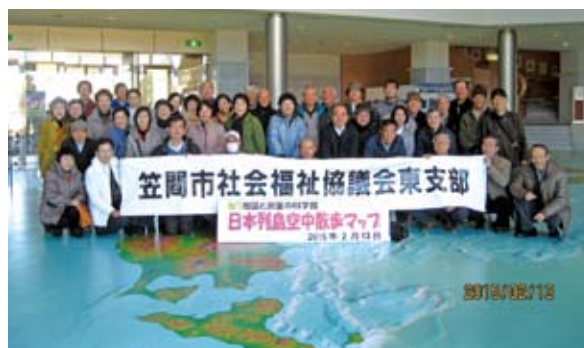
東ヶ丘区長 栗原 四郎

二十年前の平成七年一月十七日の阪神淡路大震災を大阪で体験した私は、茨城県は地震多発県であることから、友部ではいち早く平成二十年四月に自主防災組織を立ち上げました。私自身会長を務める東区長会でも折にふれ働きかけ、広めてきました。



消火栓よりの放水訓練

平成二十三年三月十一日に東日本大震災発生です。その後各区で自主



地図と測量の科学館にて

今回の視察研修は参加者から、二つ共大変有意義だったとの声が多く聞かれました。

クリスマス会は楽しいね！ —五平子ども会— 西内郷 多田 邦生

十二月に入り、地域公民館などで各子ども会の「クリスマスパーティー」が開かれました。社協東支部地域の児童数は四百人あまりです。写真は単独の子ども会としては最大人数(95人)の「五平子ども会」の様子です。



五平子ども会のクリスマスパーティー

防災組織の設立が進み、東支部の組織率は90%以上です。笠間市全体は52%です。

災害時は、自分の身は自分で守る自助、向こう三軒両隣の近助、自主防災組織の共助が大切なのです。

昨年未発表の全国地震予測地図で三十年以内の震度6弱以上が発生する確率、水戸で70%と高まっています。東支部地区は、東海第二原発より30km区域であることも念頭に置いて下さい。天災は忘れた頃、来る。喉元過ぎれば、熱さを忘れ、繰り返されます。備えあれば、憂いなしです。自主防災組織の訓練活動を継続しましょう。



救出等資器材



友部支援学校交流会

昨年の十二月に友部特別支援学校小学部との交流会に参加しました。

五、六年生合同での交流会では挨拶や参加者の自己紹介の後、児童の発表があり、「聖者の行進」の合奏は皆一生懸命取り組んでいました。演奏はとても上手でした。「ぼくたちの歌」という曲を手話を交えながら歌う姿に胸が熱くなりました。児童たちと一緒に軽快なリズムに合わせて体操やダンスを踊ったり「ロン



元気な子ども達に感銘

特別支援学校交流会に参加して

南友部 橋本 恵子

「ドン橋」等の遊びも触れ合いを楽しみました。

その後は五年生クラスとの交流でした。赤青黄の三グループに分かれて競い合うあてゲームを行いました。時々先生の助言を受けながら、後まで頑張っていました。

児童たちと触れ合えたことは私にとって、貴重な体験になりました。心から遊びを楽しんだり、何事にも真剣に取り組む姿に心打たれました。

これから健康やかに成長することを願っています。

元気で頑張っています

一この道36年の植木職人

柿橋北区 中野 明さん(81歳)

中野 明氏 昭和九年生まれの八十一歳です。造園会社に勤め植木の剪定から庭作り等幅広く活躍しています。四十五歳までは埼玉のゴム工場に働いていたが、工場が千葉に移転する事になり通勤等の事情により退職をした。同時に茨城の現在地に家を建て、父親の勧めで造園会社

ク(高所作業車)、チェーンソー、トリマー(電気バリカン)、バックホウ(樹木を掘る機械)等の資格を取



ユニックに乗る中野明さん

得した。作業上数十メートルの樹木の伐採作業は高所の為、転落防止、怪我等には特に気を付けている。今まで数え切れないほどの樹木を取り扱っているが、転落、怪我もあつたが大きな事故ではなく、現在まで無事で働いている。特に年齢も高く重労働で

あり健康管理には充分注意しており、現在も大きな持病はなく早寝早起実行と、奥様が身体に良い料理で健康を保っている。これからも植木職人として一年でも長く続けていくと決意を語った。中野さん元気で怪我をしないで頑張ってください。(聞き手・進藤)

常磐線生まれて125年 (その3)

一線路の変遷

柿橋北区 市川 惣三郎

現在では珍しいスイッチバック式線路(列車が前後に進行する)が二カ所存在した。その一は友部駅北側(現在太平洋セメント地内)に設置され上り下りの各列車は機関車を付け替えて運転した。駅が開業の折この地点に芝居小屋を造って祝賀行事が盛大に行われた。その二は、北千住駅から隅田川駅(貨物専用)を経て田端駅に入り、方向を替えて上野駅へ向った。

いずれも時間的ロスが大きく支障を来した。後に南千住→三河島→日暮里と短絡ルートが開設(一九〇五年、明三八年四月一日)され現在に至っている。一九四三年、昭和十八年から終戦まで筑波海軍航空隊(現在、県立こころの医療センター)へ駅から南に延びる大通りにレールが附設された。一九六八年(昭四三年)頃、駅構内のレール総延長は、八九〇メートルと膨大な容量で客貨輸送に貢献した。開業当時は穴戸から小山を経て上野まで五時間十分を要し、水戸街道を歩けば三日かかった。今は特急で六十一分で行き渡る。技術の進歩と発展には目を見張るばかりである。

手作り料理に舌つづみ

柿橋地区高齢者食事会開催



柿橋地区高齢者食事会

昨年十一月、十二月に東支部では高齢者を迎えて三つの食事会が開催されました。十一月十六日に宮前・鴻巣、十一月

二十九日に南友部、十二月七日に柿橋で開催されました。この内、柿橋地区では高齢者五十三人をお迎えして女性部十七人の手作り料理を味わっていただきました。

平成二十七年は世界的なテロ事件で始まりました。日本も標的にされるなど、多難な年となりそうです。

一方、明るいニュースとしては、笠間市は合併十周年を迎えます。三市町のそれぞれの良さが複合されてユニークで魅力的な市になったように思います。地方崩壊が叫ばれる中、今後益々発展してほしいと思います。

(西澤)

編集あとがき



昭和初期の友部駅前通り



機関車転向用の扇線